

# 第35回

# 読書感想文 コンクール



イラスト/戸嶋 有沙

## 作品集 2021

利尻富士町立鬼脇公民館

### 第三十五回 読書感想文コンクール作品集の発刊にあたって

利尻富士町教育委員会

教育長 島谷 一昭

この「読書感想文コンクール作品集」は、今年で三十五回  
目の発刊となりました。本年度のコンクールには、小学生九  
十二編、中学生五十八編、合計百五十編の応募をいただき、  
その中から優秀作などに輝いた作品三十三編を一冊にまと  
めました。

読書を通じた感想は、当然のことながら個々の感じ方やと  
らえ方で違うものです。自らが感じたことを文章にすることに  
は、大人でも難しいことですから、入賞できた・できなかった、  
という結果がすべてではありません。読んだ本から感じ  
取ったことを頭の中で整理し、自分の力で文章として最後ま  
で表現できたこと、この作業自体が大事な経験となることで  
しょう。そして、学年が進むにつれ、選ぶ本も多岐にわたり、  
ボリュームが増え内容も難しくなっていくますが、さまざま  
な作品に接していくことで、表現力や語彙力が培われていく  
ことも然りです。

文章を読む・書くという作業は、高校生・大学生になった  
とき、社会に出て働くとき、否応なしに求められることです。

本の世界も、これまで以上にデジタル化が進み、電子書籍な  
どが普及し手軽に楽しめる時代になり、文章にふれる機会は  
増えてきていると感じます。

今後もコンクールを通じて、本との出会いが子どもたちの  
心や希望を育み、さまざまなお話を教えてくれる友だちとな  
るよう、事業内容の充実を図るとともに、この作品集が、よ  
り多くのみなさまに読んでいただけることを願っています。

おわりに、時節柄公務も多忙のなか審査に当たられた先生  
方をはじめ関係各位に心から感謝申し上げますとともに、今  
後とも多くの子どもたちの個性、可能性を引き出すため、読  
書活動の推進にご尽力いただきますようお願い申し上げます、発  
刊のことばといたします。



# 【作品集 目次】

## 小学校一学年の部

☆ 優秀作

はじめてのキャンピング

鷺<sup>おしごまり</sup>泊<sup>たかはし</sup>小学校 一年 高橋 日<sup>にこ</sup>恐<sup>こ</sup>・・・6

★ 佳作

「ただかのぼこ」をよんで

鷺<sup>おしごまり</sup>泊<sup>おかだ</sup>小学校 一年 岡田 啓<sup>けいじ</sup>児<sup>じ</sup>・・・7

「じいちゃんだめー」

鷺<sup>おしごまり</sup>泊<sup>つよまき</sup>小学校 一年 津崎 大<sup>ひろこ</sup>翔<sup>こ</sup>・・・7



## 小学校二学年の部

☆ 優秀作

「タヌキのまよひつし」をよんで

鷺<sup>かわせうり</sup>泊<sup>ゆすき</sup>小学校 一年 川村 柚<sup>ゆすき</sup>珠<sup>すき</sup>月<sup>き</sup>・・・8

★ 佳作

「アジカのおまじのぶおんえんじ」をよんで

鷺<sup>おののら</sup>泊<sup>ひん</sup>小学校 一年 小野寺 雫<sup>ひん</sup>・・・8

「クワシンのまじえ」をよんで

鷺<sup>わたなべ</sup>泊<sup>すみれ</sup>小学校 一年 渡邊 すみれ・・・9



小学校二学年の部

☆ 優秀作

虫から学んだ大切なこと

鷺泊小学校 三年 一階堂 就斗 …… 10

★ 佳作

「二平方メートルの世界で」を読んで

利尻小学校 三年 山谷 詩葉 …… 10

「じいじのはな」を読んで

利尻小学校 三年 東海林 茉莉 …… 11

★ 奨励賞

がんばれなごし

がんばれあきひら  
鷺泊小学校 三年 須田 ひまり …… 12

「天使のかいかた」を読んで

鷺泊小学校 三年 国分 七南 …… 13



小学校四学年の部

☆ 優秀作

「二平方メートルの世界で」

鷺泊小学校 四年 近江 美和翔 …… 14

★ 佳作

「サザンちゃんのおともだち」を読んで

鷺泊小学校 四年 谷村 柸太 …… 15

「赤毛のファン」を読んで

利尻小学校 四年 飯田 乃唯 …… 16

★ 奨励賞

「5分後に意外な結末」を読んで

利尻小学校 四年 菅原 凜央 …… 17

小学校五学年の部

☆ 優秀作

「ほくは満電車で原爆を浴びた」を読んで

鷺泊小学校 五年 佐藤 周宥 …… 18

★ 佳作

「平和をまほう」を読んで

鷺泊小学校 五年 須田 海司 …… 19

「だれかを思ひこ」

鷺泊小学校 五年 川村 栞 …… 20

★ 奨励賞

「パパはわるものチャンピオン」を読んで

利尻小学校 五年 川村 隼叶 …… 21

「しんじやきのぼい」

利尻小学校 五年 加賀谷 美緒 …… 22

小学校六学年の部

☆ 優秀作

「ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。」を読んで

鷺泊小学校 六年 天内 颯斗 …… 23

★ 佳作

電池が切れるまで

鷺泊小学校 六年 渡邊 彩奈 …… 24

「天国に行った看板ねこ なな」を読んで

鷺泊小学校 六年 府録 あかり …… 25

★ 奨励賞

「化けて貸します！ レンタルショップ八文字屋」を読んで

利尻小学校 六年 木村 龍希 …… 26

「トム・ソーヤーの冒険」

利尻小学校 六年 澤田 奈実 …… 27



中学校の部

☆ 優秀作

「おじいちゃん、わすれも」を読んで

鬼脇中学校 三年 尾上 ひなの …… 28

11cm プリンスイッセンチを読んで

鷺沼中学校 三年 杉本 天音 …… 29

★ 佳作

あの花が咲く丘で君とまた出会えたら

鷺沼中学校 三年 岡本 侑也 …… 30

世界から猫が消えたなら

鬼脇中学校 三年 畠中 悠 …… 31

「西の魔女が死んだ」を読んで

鬼脇中学校 一年 牧野 泰夏 …… 32

★ 奨励賞

「友達」

鷺沼中学校 一年 入井 綾花 …… 33

国を超えて

鷺沼中学校 一年 西島 一樹 …… 34

おじいちゃんが、わすれも…

鬼脇中学校 一年 河越 姫花 …… 35



小学校一学年の部

☆ 優秀作

はじめてのキャンプ

鷺 泊 小学校 一年 高橋 日恋



わたしは、かぞへでキャンプをしたことがありません。どんなキャンプかきになったので、このほんをよみました。ちいさいなほちゃんがかじのりのとせにおおさわとおおまきらとキャンプをしたおはなすです。

いちばんにこのことといるは、ちいさいからつれていかなしいわれたけど、やくそくをしていけたこと、もうひとつは、ゆるテントのなかでこわいはなしをしたことです。なほちゃんはおわかったけど、ひとりでトイレにいけました。わたしもなほちゃんのように、なんでもちようせんしたりすべにこわがったりないたりしないこになりたいたいとおもいました。そついで、またキャンプがしたいです。

\*じじいちゃん\*

じじいちゃんにこつ張つてきだいかがつから書いてます。約束を忘れないで自分のことは自分でこつならせぬで。じじいお大人になつてもじじいも大切なじじいす。そついで何事にも挑戦する心はじじいからわたすの成長をまねてついでなす。



★ 佳作

# 「よだかのほし」をよんで



鷺 泊 小学校 一年 岡田 啓児

「よだかほ、ごひごひとくちまひま。」  
ほがのうしろきらわねて、うしろなうがいらやなしてと  
びひけていたら、よだかはうしろのまじかほしになつていま  
うだとおもいました。  
みだめがみじくからきらわねるのはかなしいです。  
とりななまにもきらわねて、いじめられるのはかわいそ  
うだとおもいました。  
みだめじゃなく、よだかのやさしいきもちでみんなとも  
だちになればいいな、なかよくなつてにんずうがえたらも  
つたのしいです。

\*11月16日

みんなを自分の家持ちがなが書いごまふ。「よだか」のうを考  
えたい、自分だつたうの感じかきえたいは大事な  
こと。そつと、優つた心を持つ、うしろな人と仲良くなれ  
よう。

★ 佳作

# うしろのちやだめー!



鷺 泊 小学校 一年 津崎 大翔

ひまじがびびびびだつたじつと、だめーがひらがなだ  
つたので、びびびでもめめとおもつてえびました。  
あひるがちやうがうらるなこひびをますが、かち  
まけりも、ゆじひをたいせいするおはなす。  
なまじいしちやだめーうじひびは、はちうつわ  
うからすが二わにおさいかかりますが、びりりともうま  
せん。二わをたべうとちかづいてきたきねは、ぶく  
つめてもちかえました。さきがちやうがなべのなかに  
ねられそうになりましたが、かちうはまだうじません。  
そこへあひるが「わたしのともだちをりゅうりしちやだめー!  
うきつねをおいはらつてかちうをたすけたじつがーば  
なまじもつました。  
あつたら、もうはちのじつとでいりました。なの  
で二わはうじとおもつました。おもだちがうまつらる  
うれはほくもたすけたうじとおもつました。

\*11月16日

ハリラキキながの読みたいじつがうもなむつた  
あつ。「あつたじつと」二わをなまじわあつたじつと、  
困り。あつたじつと、二わをなまじわあつたじつと、  
うしろのちやだめー! 二わをなまじわあつたじつと、  
うしろのちやだめー!



# 小学校二年生の部

☆ 優秀作  
（しゅうりゅうさく）

「タヌキのきょうじつ」を読んで

鷺泊小学校 二年 川村 柚珠月  
（かむらら かわむら ゆずき）



この本をわたしがえらんだ理由は、「タヌキのきょうじつ」の「タヌキ」がおもしろいかなと思ったからです。学校の子どもたちのようにべんきょうさせたいと考えたタヌキのお父さんが、タヌキの子どもたちにべんきょうをおしえるお話です。

タヌキたちはべんきょうをつづけるところに、「アリガトウ」と書けるようになりました。

でもせんそうでひるしまにげんしばくだんがおとされてタヌキたちはどこかへ行ってしまいました。

せんそうがおわりながい時間をかけて町がよみがえるとタヌキたちは、もどいてきました。

するとタヌキたちは「サンキュー」と書けるようになっていました。

わたしは、せんそうの間もタヌキたちはべんきょうをつづけていてえらいなあと思いました。

この本を読んで、べんきょうするのたいせつさと、せんそうのかなしさを学びました。

そして、せんそうはせつたいにくりかえしてはいけないし、わたしもタヌキたちにまけないようにべんきょうしようと思いました。



\*じつひょう\*

自分の思いや考えを素直に表現できています。戦争を経験したことながくても、本を読んでそのつらさを想像できることは素晴らしいことです。タヌキに負けないよう勉強も一生懸命取り組みたいですね。

★ 佳作  
（かきく）



「じつからきたのっおべんとう」を読んで

鷺泊小学校 二年 小野寺 雫  
（おのてら しのく）



この本は、おかあさんの手紙を読みながら、おべんとうを作るお話です。おかあさんの手紙には、作り方や、ざいりょうがどこからきたかが書いてありました。

わたしが、びっくりしたところは、バナナの手紙です。バナナは、日本からとくはなれた南の国でとれて百四十万本も船にのせて五日もかかります。それに、とうちゃくしたバ

ナナはみどりの色です。五日くらいで黄色くなくなってからおみせでしるそうです。

わたしのひいじいちゃんは、しょうじで海からのりをとってきます。

わたしは、そのりが大好きです。ひいばあちゃんは、はたけでキュウリやしタスなど野菜をたくさん作っています。

とてもおいしくて大好きです。

わたしは、チーズやたまごがにが手ですが、うしやにわりをいっしょうけんめいそだてている人がいるんだなと思いました。

この本を読んでどんなものにも、作った人がいるから、すきらいをして、のこしたりしないことが大せつだと思いました。

\*じいひょう\*

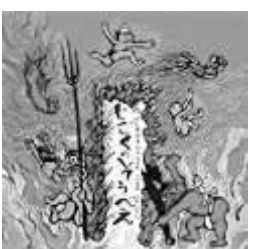
経験をもとにいろいろな感想を書くことができていました。苦手な食べ物も作った人の気持ちを考えて食べることは大切だと思います。自分の身近な人が心を込めて作ってくれた料理は特別に美味しかったです。



★ 佳作

「じいんのペン」を読んで

鷺泊小学校 二年 渡邊 すみれ



わたしが、なぜこの本をえらんだかというところ、小さいころからこの本を読んで、おもいごとく思ったからです。

やまぶしのふっかい、歯ぬぎしのしかい、いしやのちくあん、かるわざしのそうべい、この四人が、じいんにおちてしまいます。

一ばんおもしろかったところは、じんどんきのおなかの中にいる四人が、じんどんきのおならでとび出したところです。

四人はいろんなじいんにほりこまれるけれど、力をあわせていろいろ考えて、だっ出していきます。

わたしは、えんま大王が「もうじいんからほり出してこませ。」と言って、四人は生きかえりました。

もし、わたしがじいんにおちたら、仲間と力をあわせて、鬼たいじをしたいです。でも、じいんはじいんのので、おちたくありません。

この本を読んで、わたしは、人とたすけ合うことは、とても大せつだと思いました。

これからも、友だちや家族へがこまっていたら、手だすけをしていこうと思います。

\*じいひょう\*

読み慣れている本で、改めて感想を書きとめてみることは見えなかつたことが見えてくるかもしれませんね。人と助け合うことや仲間と協力するじいんをこれからもしっかりとついでにしたいと思います。

## 小学校二年生の部

### ☆ 優秀作

#### 虫から学んだ大切なこと



鷺泊小学校 三年 一階堂 就斗

ほぐが『虫ガール』をえらんだりゆづは、虫が小さいときからすきで、本の題名に虫がついていたので気になってこの本をえらびました。

この本は、虫がすきなソフィアという女の子が小さいころに体験したお話です。小さいころは、虫がすきでまわりの友だちに虫の話をしてもらいしょは「ステキ」とか「すごいね」と言われていたソフィアが一年生になったら「虫がすきな子なんてやだよ」と言われたり、みんなにからかわれるようになりました。それから学校に行くのがいやになったソフィアは学校お休みするようになりました。

そのあとソフィアのお母さんがそんなソフィアをほげまそうと昆虫学者たちにれんらくをとったら、みんながほげましてくれたり「けんきゅうを手つだって」と言ってくれました。そしてソフィアは「わたしはへんじゃないんだ」と自信をもち、学校に行けるようになった。それが本のあらすじです。

ほぐは、ソフィアと同じように、虫がすきなもので、ソフィアの気もちがわかります。ほぐだったらすきな虫のことを「きもちわるい」と言われたらしたらショックをつけて切ない気もちになります。だけびソフィアは、いじめられても虫をきらいになんない

で昆虫学者の手つだいをしたりするのがすごいと思います。ソフィアは、自信をもったことで学校のべん強やスポーツもがんばりすきになりました。

この本を読んでわかったことはあきらめないことや自信をもつことの大切さです。

これからは、この本を読んで学んだ「あきらめない」「自信をもつ」ことを大切にす。また、あいてのいけんを大切にするといこともわからの学校生活、家でも大切にすります。



【講評】  
自分の好きなものが必ずしも周りの人が好きだとは限りませんね。そして、その中で「相手の意見を大切にすること」が大切だと気づいたのは素晴らしいことです。物語の主人公のように、好きなことを中心にいろいろなことに一生懸命挑戦してきたい。

### ★ 佳作

#### 「二平方メートルの世界で」を読んで



利尻小学校 三年 山谷 詩葉

公みん館の図書室に新しい本がしょうかいされてきました。そこにあった一さつの本の表しは女の子がベッドに立って空を飛んでいました。女の子はわらっています。とても気になって、読んでみたいと思いました。

この本を読んで、わたしは一日一日の大切さと、どんな時もあきらめないでがんばることを知りました。

この本の題名は「二平方メートルの世界で」といいます。それは、びょういんのベッドの大きさです。たてやへ二メートル、はなやへ一メートルです。

わたしと同じ三年生の海音ちゃんは、さっぽろの大学びょういんに三歳のころから入っていると、たいいんをへらがえつてました。そのびょう気は一生なおらないかもしれないと聞かせた。海音ちゃんは二平方メートルの世界でねる、食べる、遊ぶ、べん強するなにしていきます。もし、わたしだったらせまいしすつと同じ場しよはつらすぎないてしまします。

入いんでつらいことの中には「ごごく感」もあると書いていました。わたしは「ごごく」という言葉を調べました。「ひとりぼっちであること」と書いていました。海音ちゃんはベッドにまたがるテーブルのうらを見てたくさんのおせ書きを見つけ、この二平方メートルの世界で、今までたくさんのおせ書きもがなばつてきたから自分もがなばつうと思ひました。一人じゃないことにごびました。

海音ちゃんはすごい強い女の子で、わたしも見習ひたいです。びょう気と毎日ただかつて強くなつた海音ちゃんは、しよつ来にゆめをまつことやお自分でおきることを見つけるのはとてもむずかしいと言ひていました。でも、こんなに強い海音ちゃんならなつておびねると思ひます。

わたしも毎日大切に生きてたいです。そして、海音ちゃんのようにびんな時もあきらめないでがなばつうと思ひます。

みんな、一人じゃないし、もしかしたらあきらめがおこるかもしれない。

### 【講評】

つらい状況にいる主人公の気持ちが寄り添って書くところができています。あきらめない気持ちを持って、なにごつにも挑戦してみましよう。もし入院して知る知り合いの人がいたら、元氣にお見舞ひに行つてあげられたいですね。



### ★ 佳作

「にじいろのはな」を読んで



利尻小学校 三年 東海林 葉莉

私は「にじいろのはな」という本を読みました。その本は、にじいろのはながいろいろな動物達をたすけていくお話です。このお話の中で心についた事があります。

一つ目は、こまった動物達をたすけるために、花びらをあげていたら、自分は死んじゃうのに、花びらをすべにわたしてつてもやさしいなと思ひました。

もし、自分がいろいろなのはなだったら、花びらをあげません。なぜかという、かれてしまうと分かっていろいろの自分の命をきせにすいじがぶきないと思ひからひです。

二人目、いろいろなのはなは、冬のあいだずっと地面の下でがまごつてすいじいなあと思いました。私だったら力チ力チになつておつておめ。

冬がおわり、春がきました。

いろいろなのはなは、まだ元気に出てきて、おひさまに会えました。まだいろいろなのはなは、人だすけに花びらをみんなにあげるのかな？と、いろいろなきが気になります。

### 【講評】ウチ・ココ

内容がまじまじと、読みやすい文章でした。「いろいろなのはな」のつづいではなないけれど、優しそや我慢強さを少しずつ真似していければいいと思います。続きを自分で書いてみても面白いかもしれません。

### ★ 奨励賞

### がんばれわんこ がんばれあらい



鷺泊小学校 二年 須田 ひまりすだ

「いろいろなぼうけん」をえらんだ理由はいろいろなの中でいろいろなをえらぶのが気に入ったからひです。

いろいろなぼうけんいろいろなわんこものが二つあります。一人目はおつておつて二人目がんばれあらいです。なぜいろいろなわんこといひいろいろな

いことをするまっくらなおいしいれに入れられ、そこにねずみばあさんが出てくるからひです。

二のお話は、ある日、わるいことをして、おいしいれに入れられたあきらさんとわんこくんが協力し、ねずみばあさんをたおすお話です。

心のついた二人は、

「いじめんなやいななか言つもんか。」

のうです。二わいの二、はやいのせかいから出たいの、あやまったらこのせかいから出してもらえるのに、あやまらないのはいいがあるなあと思ひました。そこは私にいていて少し気もちがわかる気がしました。でも私なら、こわくてこわくて入れられたらすぐにあやまっていたと思ひます。二人はまだほいくえんじなのにするいなあと思ひます。私なら泣いていたと思ひます。まっくらなおいしいれの中でねずみばあさんにまであっているののりこえた二人はりっぱだと思ひました。

それから先生は子どもたちをおいしいれに入れなくなって、少しほっとしました。代わりに子どもたちが自分から入るようになりました。こわかったものが楽しいものに入んかするのは、すいことだと思ひます。



### 【講評】ウチ・ココ

主人公たちと似ている二人を自分だしたらどう思ひますかをわかりやすく書いてくれています。怖いものを楽しいものに感じているのがとても、おもしろい感じが向かってこまめな。

## ★ 奨励賞

### 「天使のかいかた」を読んで



鷺泊小学校 三年 国分 くくぶん 七南 ななみ

私も天使をかってみたいと思って、この本をえらびました。

主人公のさちは、友だちは動物をかっていているけど、さちはマンションだから動物をかえなくて、かなしい思いをしていました。そんな時、野原で小さな天使をひろって、天使をかう事にしました。さちは天使のためにかわいい家を作ります。私なら、こんな家を作ってあげたいなあと思ぞうして楽しくなりました。天使のごはんは、さちが天使に話すお話です。よその人の話じゃなくて、さちの話が大好きな天使はかわいいなと思いました。

さちは、転校生のきのこちゃんとなかよくなりたいのに、まわりの友だちに合わせてわる口を言ってしまうって、にくい事だと分かっているから天使に話す事が出来ませんでした。

天使に話しかけない日がつづいたから、どんどん天使は弱っていった、さちはあせっていました。天使をひろった野原に行ったら弱った天使をおなかに乗せて何かがおきるのを待つさち。私も、きせきがおきますようにといのりしました。さちは、

「じじいを見て空はなんて広いんだらう。」

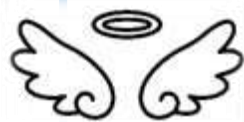
と言いました。さちは天使と二人だけで空に浮かんでいるような気持ちになりました。私は、この場面が大好きです。その時さちは、

「本当はきのこちゃんとなかよくなりたい。」

と天使にす直に話すと天使は元気になって、私はとても安心しました。

次の日学校で、天使はきのこちゃんの心に入って私を手つたってくれたので、ゆう気が出て、きのこちゃんに話しかけることができました。二人が友だちになれて私もうれしかったです。さちは天使を弱らせてしまったのに、天使はさちのためにお手つだいをしてくれてやさしいなと思いました。天使も、犬やねこと同じで、家ぞくとして心をこめて話したりお世話をしないと元気がなくなってしまうんだなと思いました。

私の家にも十才になる犬がいます。私が生まれてからずっといっしょで大切な家ぞくです。毎日話しかけて遊んでいます。これからも、毎日話をして、ごはんをあげたりさん歩に行ったりしたいです。大切な家ぞくだから、元気に長生きしてほしいなと思います。



#### 【講評】こうひやう

楽しんで読んでいたじじいが伝わる文章でした。大好きな場面のよつ言葉が通じない家族にも、心を込めて接するよつ好いとも大事です。その気持ちをもち続けるよつ、もっとよつ優つていくなれよつ思つます。

## 小学校四年生の部

☆ 優秀作

### 「二平方メートルの世界で」



鷺泊小学校 四年 近江 美和翔  
おうみ みなと

みなさんは「二平方メートルの世界」と聞いて何を思いますか？私は「二平方メートル」がまずわかりませんでした。なので何を言っているのか？何の世界なのか、とてもきまよみをとりました。

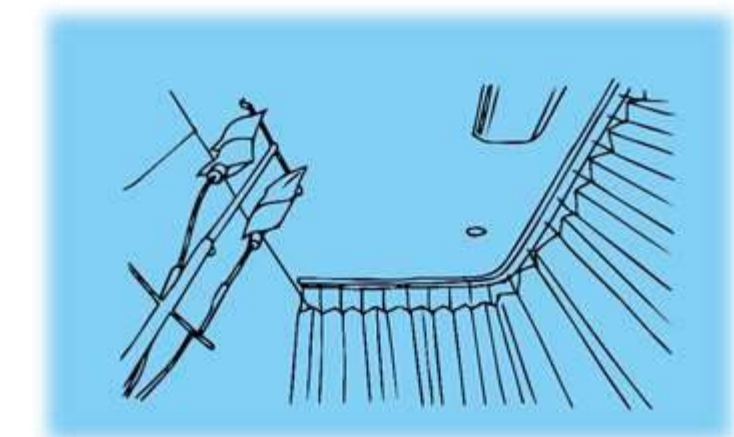
「二平方メートルの世界」とは、病室のベッドの事でした。主人公の女の子は病気だったのです。ねる、食べる、遊ぶなど一日をそこで過ごすのです。女の子が入院している病院はさっぽろに、そこには北海道中からくるそうです。女の子はさっぽろに住んでいるそうですが、それでも家族に負たんをかけている事をとても気にしていました。特にお兄さんにはごめんなさいとっていました。

私も去年うでをこっせつして手術、入院をしました。でも先生が次の日にたい院をしてもいいと言ってくれたのですぐに帰れました。もしその時に長く入院していたらどうだったんだろうと考えてみました。私の入院につきそったため母と小さな妹も一緒に入院しました。その時私は術後という事もあり色々と母にやっでもらいました。母は妹と私の世話で大変そうでした。家では父と兄の生活でせんとくやくいはんなど長く入院していたらみんな大変な事になっていただんだと思います。私は自分でのぼってはいけない所にのり落ちてこっせつをしました。自分の行動で色々な人に

大変な思いをさせてしまったんだと思い、きちんとしようと思らためて思いました。

女の子の病気は一生つきあっていかなければならないそうです。ケガはなおれば終わるけど、終わりがわからないのはどんな気持ちだろう、女の子の「こわくなる」という言葉にドキッとしました。私はほとんど同じ年の子なのにと少しうらな気持ちになりました。

女の子は自分の病気で家族にめいわくをかけているという気持ちがあるため色々ながまんをしていて、言葉をのみこんで泣いているシーンで私も泣きそうになりました。



女の子はある日テーブルのうらに書かれていたメッセージを見つけてました。それまでそのテーブルを使ってきた色々な子のメッセージでした。そこには言いたいけど言えなかった言葉があって女の子はなみだが出たそうです。私はこのシーンが一番好きです。このせまい「二平方メートルの世界」で不安やこどくどとたたかっている毎日の中で「一人じゃない。みんながんばっているんだ」とか前向きな気持ちになれたように思えたから、このシーンが好きです。

女の子は一日一日の大切さを知っていると言っています。私はどうだろうそんなふうに思って生活したことはあるだろうか？ただなんとなく同じように過ごしている私はこの女の子の一日一日をムダに過ごしているのかもしれない。せめて今日も一日良い日だったと一日をふりかえってからなように思いました。

【講評】

主人公の女の子と自分の経験を重ねながら、素直な感想が書かれているように素晴らしいと思います。自分の入院体験と読書を通して、「二平方メートル」というせまい世界で不安や孤独と戦い、がんばっている人がいることがわかりましたね。美和翔さんも、毎日を大切に過ごす、一日よりも多く良い日を過ごすようにしてください。

★ 佳作

「サザンちゃんのおともだち」を読んで



鷺泊小学校 四年 谷村 柊太

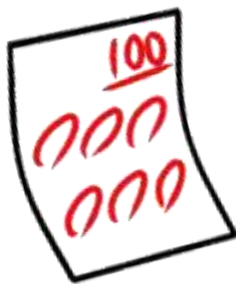
色黒で半ズボンだけはいた男の子と、たくさん動物たちの表紙をみて、この国の楽しい本かなと読みたくなりました。

サザンちゃんは、林のはじめにある自分の家から遠い道を通って草原の向こうにある学校に通っています。その日先生に教えてもらった算数などの勉強や音楽を林で待っている動物たちに毎日教えてあげます。習ったばかりの勉強をすく覚えて、それを動

物たちに教えられるのがすごいと思いました。そして8点の点と点数をつけてあげることによって動物たちももっといい点数がほしいとやる気満々になります。

ある休みの日に村のお祭りに行き、たくさんの人たちと動物たちで踊るくらべをし最高の100点の点数をもらいました。みんな嬉しそうに楽しんでいます。今コロナで大人数と遊ぶことも食べることも制限されています。僕の大事な小学校生活が終わってしまう前に早くみんなと堂々と遊んだり旅行に行ったり元の生活に戻りたいです。

サザンちゃんは、教えてもらったことを人に教えることでも勉強ができるようになったそうです。僕も見習って先生に教えてもらった勉強を早く理かいてお友達に教えてあげられるくらいになりたいです。



【講評】

本を読んで自分のことを振り返ったり、今後の生活に活かしたりしようという心が書かれています。サザンちゃんがよかったです。柊太君もたくさん勉強を、お友達に教えるように頑張ってくださいね。



★ 佳作

「赤毛のアン」を読んで



利尻小学校 四年 飯田 乃唯 いいた のい

私がこの本をえらんだ理由は、二年生のころにちゃんと読めなかったのですが、もう一度読みたいと思ったからです。

この物語は、「兜院でくらししてきたアン・シャーリーという女の子がマッシュウとマリラという兄妹の家に間ちがわれて引きとられるところから始まります。

私がすごいと思ったのは、女の子はいらなと言われたのに持ち前のおしゃべりと明るさで、二人と仲良くなれた事です。私は知らない人と仲良くなるのは、少し苦手なので、前向きに生きようとするアンがとてもうらやましいと思いました。

アンはマッシュウとマリラに大切に育てられ、その二人のために勉強をとてもがんばります。しかしマッシュウが病気で亡くなってしまいます。アンは大学へ行くのをあきらめ、マリラのそばで学校の先生として、のこることにしました。

自分のゆめをあきらめても、おんがえしをするアンにとっても感動しました。しかし、なぜアンは人のために、ゆめをあきらめる事ができるのかふしぎにも思いました。

そして、私は見つけました。「曲がり角を曲がった先になにがあるかはわからないけど、きつといつかあると信じてる。」

アンはきつと、この言葉を信じていたのだと思います。そんなすてきな考え方を私もしたいなと思いました。アンから学んだ事は、いつも前向きで、どんなこんなにも立ち向かうゆう気と強さです。私もアンのように明るく、人を思いやり、あの手ですてきな言葉をわすれないようにしたいと思いました。



【講評】

主人公のアンのおまに目を向けて、素直な感想が書かれているところがよかったです。本を通して知ったアンのおまを思い出しながら、乃唯さんもどんな困難にも前向きに進んでいく、すてきな人になってくださいね。

## ★ 奨励賞

### 「5分後に意外な結末」を読んで

利尻小学校 四年 菅原 すがわら 凜央 りお



ぼくがこの本を読もうと思った理由は、前に読んだ時におもしろかったからです。

今回読んだのは、犬におびえる少年というお話です。  
アメリカにロジャーという少年がいて、絵に描いたようなわんぱくぼくぼくで、友達にいたずらしたり、かいねこのしっぽをひっぱったり、いたずらを楽しみにしていて、ロジャーが歩くと街の人は家の前のお花をしまったりするなど、街の人から小さな悪魔とよばれていました。ロジャーは怖い物はないと言っていたけど、となりの家にかつている、メアリーという犬は顔が怖いので苦手でした。

ある日友達とけんかし、度きょうだめしをする事になり、メアリーのおもちゃのボールを取ってくる事になりました。ロジャー達が行くとメアリーはねっていたので、ボールを取ろうとした時、メアリーが目をさましロジャーに向かってきて、ロジャーを押しおし、顔をなめました。でも、それが怖くてロジャーは大泣きし、大人達が来たけど誰も助けてくれませんでした。ロジャーは夜お母さんに「メアリーがぼくを食べに来る！ぼくを味見していた。いい子になるからメアリーから守って」とお願いするお話でした。

ぼくは、どうして大人はロジャーを助けなかったのか不思議でした。でもそれは、メアリーは本当は優しくってロジャーが遊んで

くれると思い、嬉しくて顔をなめていたとわかりました。だから大人は助けてくれなかったんだとわかりました。ロジャーはただメアリーの顔が怖いからおそわれると思い泣いていたけど、ぼくは遊んでいるだけだとわかり安心しました。ただ顔が怖いというだけで判断してはいけななと思います。ぼくはロジャーが早くメアリーの優しさに気づくと思います。でも、怖い物がある方が、ロジャーがいい子になると思ったので、メアリーの存在も大切だなと思いました。

ぼくは、ロジャーが早く街の人達から小さな悪魔とよばれなくなる様に、いたずらなどをやめて友達とも仲良くできる日が来るといいなと思いました。いたずらはみんなが楽しめる物もあるし、友達とけんかする物もあります。でもまたけんかしてもちゃんとあやまって仲直りして、そうやって大人になつていくと思うので、僕もこれからいたずらなどの人がいやがる様な事をしないで、友達と仲良くできるようにがんばろうと思います。

#### 【講評】

本を読んで、不思議に思ったことを中心に、自分の考えを書いているところがよかったです。メアリーの存在の大切さにもよく気づくことができましたね。凜央君がこれからも相手のことを考えて行動し、お友達と仲良く過ごすことができるようになりますように期待しています。



## 小学校五学年の部

☆ 優秀作

「ぼくは満員電車で原爆を浴びた」

を読んで

鷺泊小学校 五年 佐藤 周希



「どこかで何かが光った。強い強い光で、ぼくは思わず目をつむった。それから、ものすごい音がした。百個のかみなりが一度に、すべてそこに落ちたような音だった。次の瞬間には、いっさいの音が消えて、なんともいえない静けさにつつまれた。その瞬間にも、電車の窓ガラスが割れて、窓側にいた人たちは見るまに血まみれになった。」

これは、一九四五年八月六日の朝、十一才の少年が見た光景です。その日、広島には原子爆弾が投下されました。ぼくはそのことを知っていましたが、実際の体験を聞いたりしたことはありませんでした。そこで、同じ十一才の少年の経験ということがあります。この本を読むことにしました。

当時十一才だった著者は、満員電車の中でひ爆しました。母親と一緒に、広島祖父母の家まで日用品を取りに行く途中でした。爆心地からたったの七五〇メートルのところでした。そのあたりの建物は、ほとんどがまき上げられ、地面にたたきつけられてはいませんでした。しかし、彼はたまたま満員電車の真ん中にうもれていたため、きせき的に助かりました。

その後、彼は母に連れられ、祖母の家がある北へ向かいます。その道中、彼が目にした悲さんな光景が、この本にはせん明につづられています。

ぼくは、一枚の写真を見ておどろきました。着物のがらが皮ふに焼きついた女性の写真です。この女性は、やけどや熱線によって、着物の黒い部分が光をぎゅうしゅうしてはだに焼きついてしまったそうです。ぼくは、爆弾一つでこんなにもひどいことが起きてしまうのかと思いました。どんなに熱かったでしょう。どんなに苦しかったでしょう。そのいたみは経験者にしかわからないものだと思います。

ぼくは初め、原子爆弾の被害が信じられませんでした。あまりにもひどすぎて、読み進めるのをためらってしまいました。しかし、きちんと最後まで読まなければいけないような気がして、読み終わりました。ぼくはこの本を読んで、原子爆弾を使うことのおそろしさを知りました。体験した人の言葉だったからこそ、より現実味を帯びて感じられたのだと思います。

筆者は、東日本大震災を経て、原子力のすべてをなくしたいと思ひ、自分の体験を話し始めました。今ほくくことができることは、その思いをしつかりと受け止め、事実から目をそらさないことだと思ひます。戦争は恐ろしいものです。もちろん反対です。ただ、ぼくには戦争や原子力について知らないことが多すぎます。今はまだ原子力について、確かな考えはありません。これからもっとたくさんの方に触れ、知識を得て、自分の考えを持てるようになりたいと思ひました。



【講評】  
うや、こひ

戦後76年がたち、年々戦争を体験した人の話を聞く機会が少なくなっ  
てきています。実際に聞くことができなくなっているから「そ、本を読む  
大切がある」と思えます。本を読みすすめていく中で、筆者の思いを受け  
止め、戦争に対する思いが伝わってきました。感想文の最後に「たたく  
んのこにむか、知識を得て、自分の考えを持ちたい」とあります。これ  
からも本を一つの手段として、たくさん知識や考え方を身につけてくだい  
ね。

★ 佳作

「平和をきずく」を読んで



鷺泊小学校 五年 須田 海司  
すだ かいし

この本を選んだ理由は、「平和をきずく」という題名を見て平和  
をきずくためにはどのような事をしてきたのか。また、その人た  
ちはどのように思われていたのかと想ったからです。

この本は、平和のためにたたかい、一時は悪く言われても自分  
の信念をつらぬいてきた人たちの話です。

この本の中で一番心に残った事は、マーチン・ルーサー・キン  
グが暗殺されてしまった事です。ローザ・パークス事件がおきて、  
市バスのボイコットの指導者になったあとに、暴力にたよること  
なく不正に対する道徳的戦いにくわるように、聴衆にうったえ  
るなど、たくさん活動をしてきたキングがなぜ暗殺されてしま  
ったのだろうか、と想ったからです。

理由は、キングが平和のために行っていた市バスのボイコット、  
非暴力運動などの活動が、とつぜん暴力によってさえぎられてし  
まったという事が、白人にとって、少しは悲しい事で、黒人と  
ってはとても悲しい事だと思えます。この時の感じ方が人種によ  
ってちがうという事はまだ平等ではないのだと思います。  
それでも、キングの活動が黒人にとっても役立ったという事は、  
すごいと思いました。そして、キングは暗殺される四年前にノー  
ベル平和賞を受賞しました。

キングは、

「わたしには夢がある。いつの日か、わたしの四人の子どもたち  
は、皮ふの色によってではなく、その人格によってはんだんされ  
る国に住むようになるだろう。わたしには夢がある……」

と言っていました。その夢がかなう日が一日でもはやく来るとい  
いなと思います。

これだけたくさん活動が行われていても、今も人種差別や、  
平和のためのたたかいは続いています。このようなことを忘れず  
に、また平和のためのたたかいで、たくさん人の命が失われて  
いるという事実を忘れずに、これからすすめていきたいです。

【講評】  
うや、こひ

昨今、何かと話題となる人種差別を題材にした本  
ですね。人種差別に対して、自分の信念を貫き、戦  
った人の思いがよく伝わる感想文でした。比較的恵  
まれている日本では、なかなか人種差別を感じづら  
いですが、今も苦しんでいる人がいることを忘れず  
に過してほいです。キング牧師のように正しい  
考えを貫ける海司さんになってほしいな。



★ 佳作

「だれかを思うこと」

鷺泊小学校 五年 川村 葉かわむら しのぶ



私は、「5分後」思わず涙。世界が赤らむその瞬間に「という短編集にしゅう録されている、「幸せのメモディー」という話で読書感想文を書きました。この話を読もうと思ったきっかけは、目次を開いた時、まさきに目に入ってきたからです。

この話は、妻のいない父子家庭の親子がやとった家政婦が実は五年前に家から出て行ってしまった妻で、夫がもう一回自分の気持ちをちゃんと伝えて、いっしょに帰ります、という話です。

一番心に残ったのは、妻が書き置きたと、結こん指輪とりこんどけを置いて家から出て行ってしまったことです。この時妻は事故が原因で多かくの借金をせおっており、夫から、「どうして、こんなことになる前に相談してくれなかったのか。子どもを育てていくためにはお金が必要なのに、なぜ黙ってお金を払い続けたのか。」と責められたのと、借金がばれたことのショックで家を出て行ってしまったのではないのかと私は考えます。

夫の気持ちもわかります。私も、理科のじゅ業のレポートの時に、友だちが失敗をかくしていたことを、「なんでかくすの、もう時間がないじゃん、ホントそいうのやめてくれる?」直すの大変なんだから。「と責めてしまいました。この時私は失敗の重大さと時間の無さで、あせって感情的になっていたので、おそろく夫もそうだったのではと思います。でも、五年後にまたいっしょにいらしたらどう伝えるか場面を見て、責めてくれる時、もしかした

ら、妻のことを心配していたのではないかな。きっと夫は妻がいなかった時も、妻のことを心配していたんだろうなあ。と改めてむねが熱くなりました。

私はこの話を読んで、人を思うことは素晴らしいことだと思いました。この話の中では、だれかがだれかを思って発言や行動をしている場面がたくさんあります。それと同時に、もっと色々な人にこの話を読んでもらいたいと思いました。私は、だれかを思って言動することがあまりできません。なので、いつでもだれかを思えるやさしい人になりたいです。

【講評】

「だれかを思うこと」このタイトルに惹かれ、読んでみると人のことを思った行動をすることの大切さが伝わってきました。感想文の中に自分の体験や考えたことを書いているのがとても良かったです。今は人を思った行動があまりできないのかもしれませんが、でも、本をきっかけに行動を変えてみることで優しい人になれるはずですよ。葉さんの今後に期待しています。



★ 奨励賞

「パパはわるものチャンピオン」

を読んで



利尻小学校 五年 川村 隼叶 かわむら はやと

ぼくがこの本を選んだのは、プロレスが好きで、チャンピオンベルトがかっこいいと思ったからです。主人公はゴキブリマスクという悪者役のプロレスラーの息子です。正義の味方のドラゴンジョージとゴキブリマスクがたたかい、ゴキブリマスクが勝ったお話です。

いちばん心に残っている場面は、最初は負けそうになったり、反則技を使ったりしたけど、最後は必殺技のホイホイドライバーで相手を倒したところです。この場面を読んだ時うれしくなりました。

ぼくは、お父さんが何としてもチャンピオンになるという自分の息子に見せたかったんだと思いました。

息子がお父さんをおうえんしたおかげで、お父さんは元気が出ました。大声で

「かっぞー！」

とさげび、息子にかっこいいところを見せていました。ここがとても心に残りました。

お父さんの姿から、勝つためにあきらめないことが大事だと学びました。

ぼくが大人になったら、強い気持ちで何事にも取り組みたいです。そして、プロレスのチャンピオンになりたいと思いました。ゴキブリマスクのように、最後まであきらめない強い気持ちをもって、どんな相手も倒せるような強いチャンピオンになりたいです。

【講評】 こうひょう

最後まで諦めないことの大切さを学び、何事も強い気持ちで取り組みたいと学んだですね。しっかりと読んだあとの活かしたいことを書いていたのが良かったです。次回は今の自分と登場人物の性格や気持ちを重ね、思いや考えの変化を書けるとより良い感想文になります。次回も頑張ってくださいね。



★ 奨励賞

子っこヤギのおじいじ



利尻小学校 五年 加賀谷 美緒  
かがや みお

わたしがこの本を選んだ理由は、題名を見てどんなお話なのか  
気になったからです。

この本の内容は、マユさんが子っこヤギのいる山に行き、  
そうしたら子っこヤギがなくなっていたお話です。

マユさんは最初、子っこヤギがだけることを、とてもよろこん  
でいました。ただ、子っこヤギのいるところに行くと、なくなっ  
てる子っこヤギがいて、それからマユさんは、なくなった子っ  
こヤギのことが気になってしかたなくなったのです。

わたしが、心に残った場面は二回目です。一目は、一匹き  
の生きている子っこヤギを

「だろっつらぬ。わわっつらぬ。」

と、ノブくんが言っているのよ、マユさんは生きている子っこヤ  
ギをわわったり、だいたりしなかったからです。わたしなら、す  
いっただらう、わわったりしてあげたいわ。

二回目は、犬のシウウマが子っこヤギをうかつしてしまったのよ、  
ノブくんはシウウマをいくんではないからです。わたしだったら  
子っこヤギをうかつしてしまっているから、いっむと思っただけ  
です。

わたしがこの本を読んで学んだことは、だれかがすごく悪いこ  
とをしたからにくむんじゃないで、悪いことをした人が反せいし

ていたらくまないとか、もし反せいしていなかったらその悪い  
ことをした人に、

「次はこうしないようにしようね。」

と、やっつ注意するんだよってよ。

なので、これからわたしは、だれかが悪いことをしたからすべ  
らくにくむんじゃないで、考え、

「次はこうしたらいいね。」

とかやっつ声をかけて注意したりすることが大事なので、これ  
からはどうしようもないとやっつ声をかけて注意するんだよ、さっき  
つづきますように心がけます。



【講評】

登場人物と自分の気持ちの違いを書いているんだよ本を読んで学んだ  
じょうが書かわれているじょうが良かったです。登場人物は、相手を思い  
つづ接しあげることが大切だね。

ただノブくんはなぜシウウマを噛まなかったのかわからないよ、  
書けるよ、自分の違いや共通点をはっきりとつづめられ良い感想文にな  
ります。次回も頑張ってくださいね。



# 小学校六年生の部

☆ 優秀作

「ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。」

を読んで



鷺泊小学校 六年 天内 颯斗

ぼくは、この本を読んで学校の大切さを知りました。この本を選んだ理由は、「ぼくたちはなぜ学校に行くのか」という本の題名が気になったからです。なぜ学校に行かなければならないのか理由を知りたかったからです。

この本は、二〇二二年十月九日パキスタン北西部でマララ・ユスフザイさんが、学校へ行くことを禁止した武装グループに銃で頭をつたれたところから始まります。

「学校へ行きたい。勉強したい。」と訴え学校へ行ったことであたれてしまったのです。二〇一三年七月、マララさんは奇せき的に回復をとり、国際連合で演説を行いました。「銃ではなく、本とペンを。戦場ではなく、学校を。」と。

この本で心に残った場面が二つあります。

一つ目は、子供を学校へ行かせてあげたいけれど、その日を生きていくのでせういっほいで通わせてあげられない国が沢山あることについてです。

二つ目は、武装グループが、ある国で子供をゆうかいし銃をこぼらせ親をうしろに命じる。そして、両親を失った子供達は帰る場所もなくなら、兵士として生きつらくなっています。



ぼくは毎日学校へ行き、勉強をして、友達と遊んだりしている生活は、当たりの前だと思っていました。世界には、学校へ行きたくても行けない子供達が沢山いるということ、戦争や差別、まずいことよって沢山の子供達が辛い思いをしながら生活しているという事を知りました。学校に行きたくても行けない。ぼくだったら、まわりから勝手に決められ、自分の意見や気持ちを伝えられない事がとても悲しいし、辛い気持ちになると思います。マララさんは、自分の言葉でこの体験を伝え続け、パキスタンの北西部スワートでは、子供達が学校に行かれるようになりつつあるこの事です。

なぜ、ぼくたちは学校へ行くのか。それは、自分の考えや言葉をまわりの人達へ伝えたりできるようになる事が大切だからだと思います。

これからぼくは、当り前に行くことができている学校を楽しみながら、これまで以上に勉強をがんばりたいです。そして、自分の言葉で考えや気持ちを伝えることが大切だと思うので、発言を積極的にしたたり、人に伝える工夫をしていきたいです。

### 【講評】

「なぜ学校へ行くのか」という題名に惹かれたのと同時に、口癖の「当たり前」について問い直さうという動機が伝わってきました。本を読み進める中で、世界の子ともたちのショッキングな事実を知り、その境遇や心境を想像するにつれて自分の視野を拓けてくるような感じがします。また、最後には自分自身を振り返り、当たりの前だと思っていた学校生活をよりよくしていくという決意の文が、感想文全体に説得力をもたせていました。





★ 佳作

電池が切れるまで



鷺泊小学校 六年 渡邊 わたなべ 彩奈 あやな

「命はとても大切だ。人間が生きるための電池みたいだ。でも電池はいつか切れる。命もいつかはなくなる。電池はすぐにとりかえられるけども命はそう簡単にはとりかえられません。」  
これは、この本の主人公で小学四年生のゆきなちゃんが病気とたたかいながら書いた詩です。

「一番に残った所が、「命なんかいらない」と言って命をむだにする人もいるという所です。今、世界中でコロナウイルスが大流行していて、感染者はどんどん増えています。亡くなる人もたくさんいます。生きたくても生きられない人もいるのになんで自殺をしたり人を殺したりするのかなあ。私もゆきなちゃんと同じ気持ちになりました。」

夏休み中に、ひいおばあちゃんが九十五才で亡くなりました。お別れに行った時は、とてもかなしくてさみしい気持ちになりました。ひいおばあちゃんも電池が切れてしまったのでしょっか？  
ゆきなちゃんの詩には、命がつかれたと言っただけで精一杯生きようとしていましたが、ひいおばあちゃんは「幸せだったよ」と言っていて亡くなった気がしました。大好きなお花にかこまれて、天国でも笑顔でいてほしいです。

「この本を読んで、私は、親に向かって「いなくなっちゃえ!!」とか自分も消えてなくなりたいって思う時があるけど、そんな時

はこの詩を思い出して、「命はとても大切だ」という事を忘れないでいきたいです。

ゆきなちゃんは亡くなってしまったけど、たくさん辛い治りょうをがんばっていました。私も今ある命に感謝して辛い事からにげずに、ゆきなちゃんのように強く生きたいです。



【講評】

作者が実際に書いた痛切な詩から感想文を始めたところが、読者を引き込ませていきます。そこから、コロナ禍や現代社会が抱える命の向き合い方について考えを及ぼしているところが良いと思います。読者の心を打ったのは、作者の言葉から実体験を振り返り、目を背けたくなるような感情にも勇気を出して向き合っているところです。ストーリーに訴えかける文体が優れています。

★ 佳作

「天国に行った看板ねこ なな」

を読んで



鷺泊小学校 六年 府録 ふりく あかり

私が読んだ本は『天国に行った看板ねこ なな』です。表紙の可愛さにつられたのと、「天国に行った」という言葉が気に入り、この本を選びました。

この本は、主人公のななが七夕の夜拾われてから、おそば屋の看板ねこになり、大地震や事故にまきこまれ、ななが体験した命の大切さ、生きる幸せを教えてくださいる本当にあったお話です。

私が一番心に残った場面は二つあります。

一つ目は、事故にあったなながとうめいになり、お母さんとお父さんに気づいてもらえないシーンです。お母さんとお父さんは、くっついてしまったななをはねた車に、泣きながらおこっています。そこでななは、

『ななを返せ』って、わたし、くっついてるわ。ねえお母さん、お父さん飲みすぎよ。へんなことばかり言ってるの』

と、くっつけて自分があるのになんで気づいてもらえないのか、お母さんのぬくもりを感じられないのか。そしてその後、わたしはもういないんだと気づきます。この場面を読んで心が悲しくなりました。自分が死んだ後、家族が悲しんでいるのを見ること、もう自分はいないと気づくこと、とてもつらかったと思います。私にななでも同じ気持ちです。

二つ目はお母さんの手術が終わった後のシーンです。お母さんは麻酔が切れ、うっすら目を開けました。そこでななが話しかけると、お母さんは

「なな、そこにいたの?」

と言いました。そしてぎゅっとななを抱きしめました。そのときななはお母さんのあたたかさを感じていました。そしてななは、お空に行きました。私はこのシーンを読み感動しました。私にななだったら、すごくうれしいと思います。そしてななに、願いがかなって良かったねと言いたいです。

この本が教えてくれたことは、命の大切さ、生きる幸せだと思っています。この本の中になんども「生きて良かった」等が書いてあります。これからも、周りの人を大切に思いやり、命を大切にしたいです。

【講評】

動機、あらずじ、心に残った場面と、とても整理されて書かれています。特に、心に残った場面の描写は、とても丁寧に書かれていて、実際に本を読んでいなくても情景を想像することが出来ました。読書を通して得た「命の大切さ」から、今後の生活において周囲の人を大切にしていこうという決意まで、自然な流れで書けていました。



★ 奨励賞

「化けて貸します!」

「レンタルショップ八文字屋」を読んで



利尻小学校 六年 木村 龍希  
きせり たつき

この本は、母が買ってきてくれた本で、ずっと家に置いてあり読むことがなかったので、この休みに読んでみようと思いました。この物語の主人公の文吾は、奉公先の八文字屋が全員タヌキだということを知ってしまうのですが、この店のために働き続けた文吾は、「人の子だからこそできること」を探します。やがて、先ばい客に正体を見やぶられてしまい、八文字屋は危機におおいついてしまいます。

お店を救いたい文吾は、命がけで八文字屋の奉公人はタヌキじゃないことを、分からせようと提案をし、八文字屋の全員で客の伊勢屋の店主と対決をし、無事に八文字屋を危機から救いました。店は文吾のおかげでお客が増えて、文吾は先ばいからも認められていった、という内容でした。

この時代は江戸時代ですが、ぼくと一オしかちがわないので、文吾は大人と同じように働いていたということにおどろきました。ぼくは、好きなこともたくさんして、友だちとも楽しくすごしたりしていることを考えると、文吾がぼくよりもずっとずっと大人に思えました。しかも、自分の家からはなれて、他の人たちとくらべてということにも、ぼくだったら、何もかもうまくできないことだらけだろうな、と思いました。うまくないめるだろうかと、読んでいて不安な気持ちになりました。しかも、人間じゃなくタ

ヌキが化けていたということも、ぼくだったら正体を知ってしまったら、すぐに逃げて家に帰るだろうなと思いました。

文吾が仕事で失敗したり、ちょっとつらい目にあっても、お兄ちゃんだからという思いでがんばっていたところで、おうんしたい気持ちになりました。

また、どの時代にもいつもの毎日の中で、あいさつが大事なのだということも、この本を読み思いました。ぼくも、文吾みたいに朝だけではなく、いつもあいさつをしっかりしようと思いました。

ぼくはしょう来、海洋生物を勉強したいと考えています。文吾のいた時代とはちがうけれど、文吾のまっすぐな気持ちや、自分の考えをしっかりと言葉で伝えることなど、ぼくも今よりしっかりとできるようになって、夢をかなえられるような一歩をすすみたいと思いました。



【講評】

年齢に近い主人公の性格や行動、自分のことを比較しながら、自分の課題について振り返ることができていました。また、将来についても記述しているのが素晴らしいです。印象に残ったこと、学んだことなどを整理しながら書けるようになってほしいと思います。

★ 奨励賞

「トム・ソーヤーの冒険」

利尻小学校

六年

澤田 さわた 奈実 なみ



「トム・ソーヤーの冒険」の主人公のトムはとてもやんちゃで、いたずら好きで、ずるがしこいけど、とても勇気のある男の子です。

この本を選んだ理由は、有名な名作だから自分でも読んでみたいと思い、家族もこの本を読んでいて、興味を持ったからです。

このお話のあらすじは、トム、親友のハック、仲良しのジョーが海そく生活をしたりのして、いつも勇気と機転で危機を乗りこえついに宝を発見し、最後にはお金持ちになれたお話です。

このお話で心に残っている場面は、トムとジョーとハックが川でおぼれ死んだとかんちがいしていたポリイおばさんや、町の人々が三人のおそう式をやっている所にトム、ジョー、ハックが生きた姿で出てきた場面です。

トムとジョーとハックの家族や友達、町の人々が、もうあの三人は帰ってこないんだなと思っていた時、三人が生きてしかも元気な姿で帰ってきたので、ポリイおばさんが

「おお、ト、ト、トムー！」  
と言った時、どんなにうれしかっただろう。そして、どんなに安心しただろうと思いました。他の人々や家族もとても喜んでいました。私も読んでいる時、つられてうれしく思いました。

私がこの本を読んで考えた事が二つあります。一つ目は、家族や友達の大切さです。ポリイおばさんは、いつもトムの事をしかかっています。いざトムが亡くなったかと思うと泣くほど悲しいし、しかった事を反省したりします。やっぱり、トムがいなくてさみしいです。トムも海そく生活をしている時、後半につれてさ

みしくなっていました。どちらも、しかる人がいる、しかるれる人がいる事などの大切さだと思いました。私も弟がいて、その弟はともうるさくて、いつもぶざけていますが、時には優しくしてくれます。でも、例えば熱が出た時はとても心配します。そして、また元気になった時はとてもうれしく思います。

二つ目は勇気を出すことです。この「トム・ソーヤーの冒険」には、ダグラスおばさんというおばさんがすんでいる家に、殺人犯が近づいてきて、ハックがダグラスおばさんに勇気を出して、「悪者がダグラスおばさんを殺そうとしているんだ。垣根のところにうずくまっているよ。」

と言いました。そしてダグラスおばさんは助かりました。このように、勇気を出して行動する事で、最後には良い事が起きるかもしれない。私も、生活委員会の委員長決めや、運動会の団長決めの時、勇気を出して

「じゃあやります。」  
と言いました。そして、最初はどつなると思いましたが、始めてみると楽しくて、さらに先生から

「とてもたのもしい。」  
と言われて、とてもうれしい気持ちになりました。これからも勇気を出すということを大切にしていこうと思いました。

【講評】  
Uta-CURU

動機やあらすじ、本を読んで考えたことなど、何について書かれているかが、読んでいてわかりやすいです。自分の運動会での経験も交えて論を進めたのもとても良いと思います。描写を詳細に書くことは大切ですが、要領をシンプルにまとめて書けること伝えたいことの精度が高まると思います。



## 中学校の部

☆ 優秀作

「よいづこやういぢわん」を読んでも



鬼脇中学校 三年 尾上 おのうえ ひなの

「はずかしながら、生きながらえて帰ってまいりました」

誰しも一度は聞いたことのある言葉と、悲しげにこちらを向く日本兵が描かれた絵本に、私は目を奪われ手にとりました。流行語にまでなったその言葉を、それまで深く考えたことは一度もありませんでした。

言葉の主、横井庄一さんは日本が第二次世界大戦に敗れた後、取り残されたグアム島のジャングルで現地民が見つかるまでの28年間、潜伏生活をして生き延びた方です。彼の人生に興味を持った、主婦の亀山栄子さんが絵本にしました。

この絵本を読んで、戦争当時、日本国民にとって戦争から生きて戻ってくることはいけないとされていたことを知りました。一人でも多くの敵兵を殺すことはもちろん、捕らえられ敵の捕虜となるくらいなら自殺しなければならぬと教えられていました。だからこそ帰国時横井さんは「恥ずかしながら…」という言葉を繰り返しました。そしてこの言葉は、彼と同じように教育された日本人の心に深く突き刺さったのかもかもしれません。

私が横井さんに感じた印象は生きることへの執念です。長い潜伏期間、敵兵に見つかからないように何度も住処を変え、その度に一ヶ月以上かけて穴を掘りました。また着ていた服がボロボロになっていよいよ着られなくなった時、彼は木の皮から布を作り、必要な織り機も自分で作り、

七ヶ月間をかけて一着の服を完成させました。知恵はもちろん日本に生きて帰ることを諦めない気持ちに私は感動しました。

そして彼が亡くなる前の最後の望みは、ジャングル生活を生き延びるためにやむなく食べたカエルやネズミなどのお墓を建てて欲しいということでした。そんな優しい彼が敵兵を殺すことが、どれだけ辛いことだったでしょうか。目の前の敵を殺さなければ生きられない、戦争の被害者は女性や子供たちだけではありませんでした。

この本を読み終えて一番思ったことは、なぜ著者の亀山さんが小説や歴史本などではなく絵本という形にしたのかです。私の想像ですが絵本というものは、自分で読むことはもちろん自分の子供や年少者に読み聞かせてあげることが目的だということです。戦争を経験した人たちが少なくなる中、先人に戦争の実態を聞きそれを伝えていく必要があると思います。横井さんをはじめ、戦争を経験した人たちが残した思いを次の世代に繋いでいく、という役割なら私にも出来るのではないかと思えます。私もこの絵本に出会えたからこそ、戦争を伝える意味が少しだけ理解できたような気がします。

この絵本の最後は横井さんの詩で締め括られています。

「この次は戦なき世に生まれてきて父母子らと夕食を囲ませむ」

私は今、彼が思い描いた幸福を感じることができています。とっして戦争をしてはいけないのか、いつしたら戦争をせよと生き延びていられるか、自分なりの答えを考え続けていきたいと思えます。

### 【講評】

実際に経験していない戦争について理解する手段の一つが文字による伝達です。作者がなぜ絵本という媒体を使ったのかという視点から、戦争の実態を伝えることの必要性を理解しましたね。戦争について学びたい、身近にたくさんの方の幸福があるように感じたいと思います。ぜひ今のひなのさんの思いを周りの人に伝えてみてください。

★ 優秀作

「11cmプラスイッセンチ」を読んで



鷲泊中学校 三年 杉本 天音  
すまむち そらね

私がこの本に手を伸ばしたのは、コロナウイルスが世界中に流行し始めたある日のことでした。本を買ったのは、もう少し前のことでしたが、その時はタイトルに惹かれただけで、内容は深く考えなかったため、あまり読みもせず本棚に並べているだけでした。

私は小学六年生の春から三年間、親の仕事の関係でブラジルのサンパウロに引っ越すことになりました。不安と期待、複雑な気持ちでスタートした生活でしたが、異文化の中での毎日は新鮮であつたという間に二年間が過ぎていきました。

中学二年生になった夏。コロナの影響を受け学校は四月からずっとオンライン授業が続いていました。ブラジルは毎日の感染者数が十万人を超える日もありました。なので、ずっと心の中で恐怖と「自分はここで何をしているのだろう」という焦りのような気持ちがありました。そのように思うような日々が過ごせず、気持ちが沈んだ状態が続いていたある日、ふと、本棚のこの本に手を伸ばしてみました。「この中に何か自分の気持ちを変えられるヒントが見つけれないか。」と思い、読み始めたのです。

この本には題名の通り、「世界がガラリと変わる」魔法のような言葉がたくさん書かれています。心にそっと寄り添ってくれるような言葉のおかげで、去年の私は助けられ、今に繋がっています。

たくさんメッセージが書かれています中で私の心に大きく響いたページを紹介します。

私に通っていたサンパウロ日本人学校は小中合わせて百三十人ほどの規模で、私のクラスは十名程度でしたが、日本全国から集まった友達はいんな個性で、仲が良いクラスでした。でも、去年はコロナの影響でたくさんクラスのメイトが日本に帰国していくという経験をしました。「きつと帰ってくるからね」と約束しても、そのまま本帰国になってしまつ友達。友達が一人ずつ減っていくにつれて、悲しみは大きくなり、勉強も生活も上手くいかなかったことが増え、ネガティブな方向ばかりに考えてしまつ毎日が続きました。

この本には「私たちが涙を流したり、苦しんだり、焦ったり、怒ったりしてしまつのはただ知らないだけなのだ。これが全ての終わりなどではなく新たな人生の始まりに過ぎないということ。」という文があります。その瞬間、私は気付かされました。辛くて、苦しいこの時期は、私が自分自身を変え、強くなる為の時間であり、新しい自分へのスタートだと思えたのです。

最終的にクラスは担任の先生と私だけになってしまいました。でも、この言葉があつたからこそ、私は何でも積極的に挑戦し、新しい自分になつと努力するようになりました。ブラジルでの生活を楽しみ、これらの状況下でも楽しめることを考えるようになりました。

私はこの夏休み、高校受験に向けての勉強を頑張っています。今、辛い勉強を挫けずに頑張ろうと思えるのは、あの経験があつたからだと思います。これから先、大きな壁にぶつかることは何度もあると思います。でも、そんな時は「新しい人生の始まりへ向かう道」だと思つて、前向きに過こしていきたいです。もし、心がネガティブな方向に行ってしまったら、この言葉を思い出して、1センチだけでもポジティブな方向に進んでいきたいです。



【講評】  
「出会い」が自分の人生に大きな影響を与えることは、たくさんあります。それは、人であったり、言葉であったり、様々です。天音さんにとっては一冊の本でしたね。天音さんがこの本の言葉に救われたように、反対に自分の言葉が誰かの助けになることもきっとあるのです。読書を通して多くの言葉と出会い、自分の人生の道しるべとなるような、もしくは、不安に思う誰かを支えられるような、そんな言葉の力を、これからも大切にしようと思います。

★ 佳作

あの花が咲く丘で君とまた出会えたら



鷺沼中学校 三年 岡本 侑也

おかもと ゆきなり

「生き恥なんて言葉、使わないで！ 生きたいって思う人を否定する権利なんて、誰にもない！ 生きようとする人を止める権利なんて誰にもない！」

生きた

いと言いつつ特攻隊員の板倉を罵る加藤に中一の百合が無意識に放った言葉だ。

何もかもがいやになり家を飛び出した百合は目が覚めると戦時中の日本。そこで彰という男に助けられ、彼と過ごしていく中で彰に恋をしていく。そんな中、彰は特攻隊員に選ばれ、「もう一度会いたい」と思いながら、戦地に飛び立ってしまうという話だ。



この本を初めて見た時、戦時中の人の心情や環境など、甘く見ていたが、よく読んでみて怖くなった。本の中ではどのような結末にしようが自由だが、実際この戦時中、結末や一度あった物は変えられない。過去には戻れないのだ。

「後悔しないようにしろ」こんな事を何十回何百回言われても、過ぎてしまった時間は戻っては来ない。それは戦時中でもそうだ。一度、死んでしまったら生き返る事は不可能だ。人生は、RPGゲームのように「リニュー」はできないのだ。

現代を生きる百合は、今したい事をしてほしい、「後悔」をしてほしくない。そんな思いで冒頭の言葉を言ったのではないだろうか。生きたいという事を否定され嬉しいと思う人はいるのだろうか。そんな事を考えているうちに新たな疑問がうかんだ。

なぜ百合は無意識に言葉を放ったのか。

自分がさっき言った、今したい事をしてほしい、「後悔」をしてほしくない。そう思っているにも、無意識、つまり「考えていない」と言葉にする事はむずかしい。人は、考えて行動する時もあるが無意識にやってしまう事もある。そこで大切にするのが経験だ。知識があれば、経験がなくてもできるかもしれない。だが、何も分からない中、経験をし、得られる事もあると思う。

自分が思うに、百合は現代でたくさんの、「失敗」という名の経験をしてきたのではないか。親とけんかし、学校も嫌になり、何もかも嫌になった百合だからこそ、その場で自分の思いが上手く話せたのではないか。

戦争は、なくなるわけじゃない。いつどこでどんな事が起こるか分からない。この事実は僕を含めたすべての人にあるという事を忘れてはいけない。

人生というのは、全部が思い通りにいくわけじゃない。時に喜び、時に泣き、時に後悔するかもしれない。それでも、昔の方々が命をかけて作り上げた世の中だ。生きなければならぬ。そして次は、自分達が作っていく番だ。これから失敗もするし、後悔もするだろう。自分もそうだし、みんなもそう。

だから自分らしく、後悔も経験に変えて、前向きに生きていこうと思

### 【講評】

「生きたい」。戦争という時代を生きただけだからこその響く、切実な思いがあります。現代に生まれるわたしたちにとって「生きる」とはどのようなことか、生きる上で大切なことはなにか、改めて考えさせられました。後悔も失敗も経験であるという見方を養って捉えることが大切だという偉也さんの気づきは、ききとこれからの生き方を充実させていくものでしょう。今後も色々なことと挑戦していきましょう。

## ★ 佳作

### 世界から猫が消えたなら



鬼脇中学校 三年 畠中 悠

もし自分だけだったらどうしようか。この悪魔の七日間を経験するのなら、この世界から何かを消す。その代わりにあなたは一日だけ命を得る。本の中で、主人公が聞いてしまった一言に心が押しつぶされた。

川村元気の「世界から猫が消えたなら」は、余命わずかな男性の話である。家に帰るとそこには、悪魔がいた。その悪魔はこう言った。

「この世界から何かを消す。その代わりにあなたは一日だけ命を得る。」主人公は、生きるために、何かを消すことを決めた。主人公と悪魔の七日間が始まるという話だ。

もし自分がこんな場面になったら、主人公よりも、もっともっと迷いに迷い、考えると思う。自分の大好きなものや、時計、はたまた、自分の大切な友を失うことは絶対にイヤだと思っし、でも自分が消えることも、やっぱり怖いし、決めることができないと思った。

この本を読んで、この生死をかける場面はごっくろかわからないので、改めて一日一日を大切にしようという気持ちにさせられた。この主人公は、急におとされた生死がかかる場面だった。このことはもちろん悪魔はこないかもしれない。でも、自分の寿命はいつまでかわからない。これは自分だけにかぎられない。もちろん友達や家族と生死関係なく、なかなか会えなくなることもある。例えば、転校や進学などで、会えなくなることもある。ほくも、今年で、この利尻の地を出るようになる。もちろん友達と会えないのはさびしい。だからこそ、今年の三月までの一日一日を大事にしたいと、強く感じた。

これからの人生。まだまだはじまったばかりの人生かもしれないけど、この命を大切に、毎日を大事に生活していきたい。

### 【講評】

「何かを消す代わりに一日の命を得る。」「ファンタジーならではの条件ですが、いろいろな考えをせむらわぬ内容です。考えれば考えればと結論から読める気がすると思います。命のいよも家族のいよ、友達のいよ、学校のことなどたくさん思いを巡らせたと思います。悔みに悩んだからこそ悠くん独自の考えが生まれると思います。かわかばも事あることだわん考え、その度に新しい自分像をひたひた作っていくんだわん。



★ 佳作

「西の魔女が死んだ」を読んで



鬼脇中学校 二年 牧野 泰夏

「西の魔女が死んだ」これは僕を成長へと導いてくれた物語。中学生のまいといっしょは、いじめを受けて不登校になってしまいました。そこで、母の祖母「西の魔女」の家で生活することになり、まいはおばあちゃんから魔女の修行を受けます。その修業は、「早寝早起き。食事をこつからとる。よく運動し、規則正しい生活をする。」そして、「何でも自分で決めること」でした。始めは簡単だと思いましたが、おばあちゃん「そっぴい」簡単なことが一番難しいことと言いました。私は休みの日に遅くまで寝ていたり、だらだら過ごす日があります。だから、おばあちゃんが言った言葉で、そっぴいしないことに気付くことができました。

さらに、魔女の修行で一番大切なことが、「自分で決めたことをやりとげる力」だそうです。まいは、自分で決めたことを実行し、おばあちゃんのもとを離れた後も続けました。僕は誰か言われて行動することが多いです。しかし、まいが成長する姿を読んだら、「このままではいけないと思うようになります。僕も、魔女の修行を行うことで」「自分で決めたことをやりとげる力」などを身につけていきたいです。おばあちゃんは生きていくために大切なことを、魔女の修行を通して教えてくれたのだと感じました。

そして、死んでしまったらどうなるのかを話している場面もありました。まいは小さい頃パパに「死んだらもう最後の最後なんだ。自分が死んでも、やっぱり朝になったら太陽が出て、みんなは普通の生活を続け

るんだ」と言われて悲しいと思いました。でも、僕はまいのパパとは考えが違います。残された人は「くなくなってしまった人の思い出やぬくもりが残っていると思ったからです。まいのおばあちゃんは「死ぬということとは、魂が身体から離れて自由になること。」と言っていました。まいは、おばあちゃんからの「あふれんばかりの愛」を実感します。

これらのことに気付けたのは、「この本のおかげだし私は思っています。自分で決めたことをやりとげること」「規則正しい生活をすること」「こつから、改めて「人の温かさ」を実感しました。学び、目標など知ることがたくさんあり、生きていくために必要なこと教わりました。魔女の修業を行い、僕もまいのように成長する為に努力してきました。今回学んだことをこれからの人生にいかしていきたいと思っています。

【講評】

泰夏くんが本を読んで学んだことはおもしろく生きて生きる上で当たり前のことだと思われたい。しかし、まだその前の自分を前よりもよくなるのは、非常に難しいことだと思います。しかし、実践しようと思ったら、「まじ」と同じような困難が立ちはだかるでしょう。そんな時は、『西の魔女が死んだ』を読み返してみたいです。新たな発見や人生の指針を見ることができるかもしれません。ぜひ自分の成長のために読んで。



## ★ 奨励賞

### 「友達」



鷺沼中学校 一年 入井 綾花  
いりい あやか

みなさんにとって友達とは何ですか。

友達と親友の違いは何ですか。私かもこのように問いかけられたらすぐには答えが出せないと思います。なぜなら理由を考えずに、勉強したりの遊んだりと一緒にいるからです。また、そんな風に考える必要も無いと思っていただけです。

この本は、足を悪くしてしまった恵美さん、病気がちなゆかさん、できる転校生にしようとする男の子、八方美人、弱虫の子達が友達に関係する悩みや不安を持っているお話です。私は誰もが持っている悩みだと思います。

私が印象に残っているのはこの本に登場してくる恵美さんです。彼女は

「いなくなっても一生忘れない友達が一人いればいい。」

と語っています。私は一人でいるのは平気だけど、友達に嫌われたくない。嫌われたいとは思わない。友達と一緒にだからやれることもある。私の気持ちは恵美さんから見たらどうなんだろう。もしかしたら、恵美さんには理解できないことかもしれない。

なぜなら恵美さんの考えは違っからです。

「たった一人でも友達がいればいい。」

「自分の事をわかってくれる友達が一人でもいるならそれでいい。」

そんな恵美さんを私はカッコイイ、周りの目も気にしない強い人間、そして自分の意思がはっきりしている。

うらやましい部分もありました。

私は自分の意思を伝えることが苦手です。

面倒くさい、何か言われた時の返答に困り、最終的には周りの空気を読んで「まあいいか」と心の中で納得してしまっからです。なので振り返った時、後悔することもあります。

私は『きみの友だち』を読んであらためて「友達」を考えるきっかけになりました。

私は友達にどんな風に接しているのか、私の行動、発言で友達はどう思っているのか。逆に友達は私とどんな気分で一緒にいるのか。

友達とは何か。

色々な意見、考えがあると思う。

私にとって友達とは様々な場面で笑い、楽しみ、時にはケンカしたり悩んだりなどして学校生活を一緒に送りたい。

そして大切にしたい。

この先も色々な出会いがあると思う。またその時考えが変わってくるかもしれない。

恵美さんのようなセリフを言えるようになるのかなれないのかわからないけど、恵美さんのように強くなりたい。自分の意思で進みたい。

#### 【講評】

自分にとって「友達」とは何だろう。そんな素朴な疑問をきくまっかけになったのではないだろうか。綾花さんが答えに悩んだように、明確な答えを出せる人は少ないでしょう。そして、いまの自分の答えと、少し大人になってからの答えは、また違っものかもしれない。考え続けることはとても大切です。色々な人の考えを知り、自分の思いや考えを深めていってほしいと思います。

★ 奨励賞

国を超えて

鷺沼中学校 一年 西島 一樹 にしじま かずき



日本人は日常的にハグをする習慣がない。なのでこの言葉を知っている人も少ないのではないだろうか。

『フリーハグ』

それは自分の思いや考えをボードに書いて、そのそばで両手を広げて待つ。もし、道行く人がその思いに共感してくれたらハグをして、その思いを共有する、というものだ。

私は「日本人が反日デモでフリーハグをしてみた」という動画を見て「フリーハグ」という言葉を知った。反日デモが行われている韓国の広場で、日本人の男性が

「私は日本人です。いま、NOアベ集会が行われています。日本ではこれは反日デモと報じられ、韓国人は日本人のことが嫌いなのだと思ってしまう人もいます。しかし、私はそうは思いません。(中略)私は皆さんを信じています。皆さんも私を信じてくれますか?もしそうなら、ハグを。」

と韓国語で書かれたボードを置いてハグを待っていた。その男性の思いは現地の韓国人の人たちに伝わり、集会に参加していた人までハグをしに来ていたのだ。軽い気持ちで見始めた動画だったが、その三分間の動画に私は深く心を奪われてしまった。

そして、フリーハグの活動やそれを通して感じたこと、出会いなどを書いたその男性の本を見つけた。

彼の名前は桑原功一。学校の教師になることを夢見ていたが、子どもの心に寄り添える教師になるためにはもっと世の中のことを知らなくてはいけないと思い、世界を冒険することを決めた。その準備として、英語を学ぶためフィリピンのルソン島に語学留学した時のクラスメイトの行動が、彼の心を大きく動かした。そのクラスメイトは、韓国人の学生だった。

「韓国人は老若男女問わずみんな反日なんだろう。」  
と身構えていたが、そのクラスメイトはとても面倒見がよく、彼を弟のようにかわいがってくれた。反日という言葉はそこには無く、韓国人の優しさで気づいた感動したそうだ。

そして、中国の西安で日本語教師のアルバイトをしていた時も、日本語を学びに来ていた中国人の若者は日本の音楽や漫画に興味と愛着を持っていた。しかし、彼はその西安で数千人規模の反日デモを見ることになる。日本車がひっくり返され、日本国旗が焼かれ、デモ隊の人々は取りつかれたように怒声を上げて暴れまわっていた。

彼はその破壊的なデモを目の当たりにして

「僕の心は、鉛を飲み込んだように沈んでいった。」  
と表現している。もし私が同じ場所にもいても、同じように衝撃を受けたであろう。しかし、彼は中国人や韓国人の優しさや暖かさも知っている。多くの日本人はそのことを知らないため、反日デモや集会はメディアに多く報じられ私達日本人の耳にも届きやすい。そういった一部の情報で「あの国は反日だから。」というイメージができてしまう。彼は実際に人対人で触れあうことでそのイメージが壊され、中国人や韓国人の真の優しさに気づいたのだと思う。

「国と国との間にどんな問題が横たわっていても、ひとりひとりの『人の心は通い合う。』」

私も一般のイメージや情報をそのまま受け取るのではなく、人の気持ちの本質を自分の目と肌で確かめられる人になりたい。



【講評】

人間はいついしても相手を見た目で判断しがちです。あるいは、断片的な情報により、根拠のない偏見を抱いてしまっているかもしれません。最近の情報を得られる媒体が増え、正しい情報も間違った情報も関係なく自然と入ってきます。そんな社会の中で、言葉の壁を越え、体感的に心を通わせることが大事だといつ一樹さんのメッセージを感じました。これから実践に活かしていついほつと思えます。

★ 奨励賞

おじいちゃんが、わすれちゃ…



鬼脇中学校 一年 河越 かわこし 姫花 ひめか

私は、「おじいちゃんが、わすれても…」という本を読みました。

この本の内容は、主人公の杏はテニスがすごく大好きでこのテニスはおじいちゃんに教えてもらったものでした。ある日おじいちゃんが認知症になってしまいます。杏は犬を拾って来ます。杏はテニスの大会に出場するつもりですが出場しませんでした。理由は犬と一緒に行方不明になったおじいちゃんを探すためです。おじいちゃんのことを大好きな杏のお話だね。

このお話を読んで心に残った場面は、ずっと出たかったテニスの大会に出るのをやめることを決心した時です。杏は山科テニスクラブに入っていてそのクラブのアシスタントの坂上くんという人にサーブを教えてもらっていました。それでも杏は大会に出るのをやめました。

もしも、私がこのお話の主人公である杏だったらどついつい風に考えるのか考えてみました。杏は山科テニスクラブに入って最初の頃あまりできなくてまわりから嫌なことをたくさん言われていました。もしもそれが私ならもうテニスクラブからめれたくなると思いました。

次は認知症のおじいちゃんという時です。杏は目をはずすと、すくなくなくなってしまうおじいちゃんでも優しくしてあげていました。時には道路にあった自転車を家におじいちゃんは持ってきてしまいました。もしもそれが私だったら、おじいちゃんの介護を一人ではできないと思

いました。自分のお父さんやお母さん、姉妹に助けを求めてしまうと思います。その後はきつと任せきりになってしまって、自分が介護をしてあげるのはたまになってしまいます。杏はすくと思いません。

この本を読んで、これからおじいちゃんやおばあちゃんが困っていたらきちゃんと助けてあげようと思いました。そしてできないことがあっても杏のようにあきらめずに取り組もうと思いました。

【講評】

普段生活をしていると、いついしても諦めてしまついたり、目をそむけたくなるようなことがたくさんあると思います。全てのことに対して諦めないで取り組むのは、感情を持つ人間にとっては非常に難しいことです。しかし、「諦めずに頑張ろう」という意志があればなんとかなることがあります。姫花さんも杏のように諦めずにあきらめずにチャレンジしてみてください。



『審査を終えて』

第三十五回読書感想文コンクール審査委員長

利尻小学校 大熊 友寛

今年も、難しい夏休みの宿題「読書感想文」に取り組んでいただきありがとうございます。私も小中学生の頃は、「書きたくないなあ」と夏休みの度に思っていました。「漫画だったら読めるのかな」とか、「Youtubeの動画だったら書けるかも」と考える人もいたかもしれません。そこで、今日は小説と漫画について話をしたいと思います。

昔テレビの企画で『教科書の作品を漫画で読んでみよう』という企画がありました。そして、その漫画を読んだ人と教科書をそのまま読んだ人で分かれて国語のテストを受けたのです。そうしたら、漫画を読んだ人の方が平均点数が高い結果がでました。

まあ、そうなる。「じゃあ、教科書の話は漫画にすればいいじゃん」と思う人もいるでしょう。しかし、それでは小説の良さが全くなくなってしまいます。文字だけのつまらなさを小説の素晴らしいところ。それは、「想像する」ことができることです。漫画だと、景色、主人公の背格好、いろんな場面の動きや怒ったり泣いたりした表情が全て描かれています。しかし、小説では自分の思った通りの背格好で、細かい表情、背景などの景色が自分の思ったように作りあげることができます。

この楽しみ方は小説を読むことでしか味わえません。けれども、先ほどのテレビの解説者の話だと、『最近の子供は想像力が少なくなってきた。だから小説を読むときに楽しめない子供が多い。』と言っていました。その理由は、内容を考えなくても楽しめるコンテンツがとも増えてきているからです。

確かに漫画、Youtube、テレビやゲームは想像することが少なく楽しむことができます。実際にとても楽しいものだと思います。全く見るなどは言いませんが、少しでも小説を読む時間を増やしてみてください。そして、登場人物の気持ちを考えた、この人はどんな見た目をしているのか、どんな場所にいるのか、表情はどんな感じなのか…などいろいろなことを考えて小説を楽しんでみてください。

顔を見ないで情報をやり取りすることが簡単にできる今だからこそ「人の気持ちを考える」という力はきつと役に立っています。



【第三十五回 読書感想文応募校と応募数】

■小学校一学年の部

鷺小 五  
利小 三

■小学校五学年の部

鷺小 十  
利小 三

■小学校二学年の部

鷺小 八  
利小 〇

■小学校六学年の部

鷺小 十四  
利小 六

■小学校三学年の部

鷺小 十五  
利小 六

■中学校の部

鷺中 四十九  
鬼中 九

■小学校四学年の部

鷺小 十四  
利小 八

小学校計	九十二
中学校計	五十八
合計	百五十

【審査の先生】

鷺泊小学校・・・石川 泰 樹 先生  
利尻小学校・・・大熊 友 寛 先生  
鷺泊中学校・・・齋 藤 雄 司 先生  
鬼脇中学校・・・上 村 海 帆 先生

●令和三年度

第三十五回読書感想文コンクールを終えて

読書感想文コンクールに、応募していただいた児童・生徒の皆さん、ご協力ありがとうございました。

また、各学校の校長先生はじめ諸先生方には、作品の取りまとめから審査に加え、昨年度に引き続き表彰に至るまで、お力添えを頂き厚くお礼申し上げます。

コロナ禍が長期化し、文芸作品も例外なくその影響が及んでいます。本年の読書感想文にも戦争や命などのテーマに並び、コロナ禍に関する子ども達の率直な感想が述べられていたこと印象的でした。

一日でも早く不安のない生活を送ることが出来るよう、事態の収束を願ってやみません。

令和三年十二月発行

利尻富士町教育委員会 鬼脇公民館業務係



最後の頁を閉じた 違う私があった